

「巡回アカデミー」（島根県研修） の実施について

市町村アカデミーでは、様々な事情によって千葉の本学での研修受講が困難な地域の要請等により、当該地域に赴き、高度で専門的なカリキュラムを短期研修として提供する「巡回アカデミー」を平成27年度より年度内に2回実施しています。

令和4年度は、第1回目を7月に島根県で、第2回目を10月に宮崎県で開催することとしました。第1回目は、7月27日（水）から29日（金）までの3日間の日程で、島根県松江市にある島根県市町村振興センター6階大会議室において、島根県市町村総合事務組合との共催で、「空き家再生研修～現地視察や事例等から、リノベーション手法を学ぶ～」の研修を行いました。

27日（水）は開講式の後、「空き家等を有効活用したまちづくり」と題して、共立女子大学家政学部建築・デザイン学科教授の高橋大輔氏から、空き家や空き店舗等を活用しながら、地域住民の居場所づくりからはじまる小さなまちづくりについて、事例を交えてご講義をいただきました。研修生からは、「空き家を活用することは、誰かの居場所づくりにもなると知り、様々な活用方法の事例も知ることができて勉強になった」、「空き家を改修するだけでなく、その入居者もきちんとフォローすることが大切だと感じた」などの感想が寄せられました。



高橋 大輔氏



西村 浩氏

次に、「リノベーションまちづくり」と題して、株式会社ワークヴィジョンズ代表で建築家の西村浩氏から、民間主導、行政支援の公民連携で取り組んでいる実践例を基にした、リノベーションによる新たなエリア再生手法について、ご講義をいただきました。研修生からは、「駐車場の話は衝撃を受けた。空き家・空き地は悪いことではなく、ポテンシャルなんだと気づかされた」、「箱物ありきではなく、エリア価値を高めるという目線が新鮮だった。

いかに人が集まるエリアを作るか考えたい」などの感想が寄せられました。

28日（木）は、「事例紹介～松江市・出雲市フィールドワーク～」と題して、島根大学総合理工学部建築デザイン学科教授の細田智久氏引率のもと、松江市内の「天神町127」、「SUETUGU」、出雲市内の「とびっこハウス」を視察し、実践者の生の声を聴くとともに、空き家や空き店舗をオフィス・飲食店・交流スペース・学生シェアハウスに改修転用した事例を学びました。研修生からは、「当事者の方のお話を聞きながら物件を見る機会は無かったので、とても良い機会となった」、「具体的な事例について様々な角度から分かりやすく説明していただき大変参考になった」などの感想が寄せられました。



フィールドワークの様子



細田 智久氏

最終日の29日（金）は、「課題演習（討議・発表・講評）」と題して、指定された演習班で、研修生が事前に提出した課題演習資料や、前日の視察を基に「活用を考える空き家物件」について討議し、班ごとに討議した結果を発表するなど、前日に引き続き細田智久氏からご指導、ご講評をいただきました。

限られた時間内での演習でしたが、活発に議論され、研修生からは、「他市町村の方と意見や考えを出しながら1つのものを制作していくことができ、とても貴重な経験となった」、「実際にある建物の活用を検討することで、具体的にイメージすることができ、また様々な意見が出て参考になった」などの感想が寄せられました。